# 東二線４カ月ぶりに開通！

今月上旬冬期間通行止めとなっていた25号東二線の通行が解除となった。雪の高さは迫力があります。14日撮影。

ティータイム

この時期は、卒業、進学、就職、転勤など人生の節目の月として、一年の中で一番心に残る月ですね。

三月に屈足中学校と屈足南小学校の卒業式に出させていただきました。

両方の卒業式も厳かの中、心温まる卒業式で自分の子供がいるわけでもないのに目頭が熱くなりました。

中学生は幼いころから一緒に育ってきた10名の仲間が、それぞれ希望の高校へと旅立つことで、おそらく同じメンバーで行う最後の行事で胸にこみ上げるものがあったと思います。

卒業生を送る集いでの在校生と卒業生の中の良さが印象的でした。これも先生や屈足の地域で多くの方に温かく見守られて育った賜物のような気がしました。

小学生は、11名の卒業生が真新しい学生服での式でした。どの子も凛々しくかっこよかったです。

## 「別れと出会いの季節」

新得町役場屈足支所長　中村吉克

卒業証書授与後、ステージ上で自分の目標を大きな声で発表する姿は、小学生6年間で大きく成長して、大人への階段を確実に上っていることを印象付けました。

就職や転勤でも今までと違う環境に変わる方も多いと思いますが、別れは新しい出会いの始まりと思えば、感傷的にならずに「今度はどんな楽しいことが持っているんだろう？」と思えばワクワクしてきますね。

さあ、新年度が始まります。気持ちを新たに健康に気を付けて頑張りましょう。

追伸

3月22日に屈足地区交通死亡事故ゼロ5000目達成しました。これも今まで皆さんが積み上げてきた上でのことで本当にありがとうございました。

25日には盛大に皆さんでお祝いしました。

今後も「交通安全で幸せな町屈足」を目指していきましょう。

# こちら屈足駐在所

Ｎｏ22

鈴木進司　巡査部長

## 「車上ねらいにご注意」

清水町、鹿追町で車上狙いが多発しています。犯行形態は、長時間、駐車していたところ被害にあっています。

車を駐車する際は、油断することなく車の施錠を必ず行うこと、車内に貴重品を入れないよう防犯に努めて下さい。

たとえバッグの中に財布等の貴重品がなかった場合であっても、犯人側からすると貴重品が入っていると判断し、窓ガラスを割って犯行を行います。

そして車上狙いの犯行は、車の鍵が無施錠であればものの数秒、車の鍵が施錠状態であれば窓ガラス割りも含めて数分で行えます。

ですから家の敷地内、職場、病院に行くとき、コンビニで買い物をするとき、友人の家に駐車する時も必ず上記の防犯を行って下さい。

また、見覚えのない車が周囲を徘徊している等の不審車両や駐車中の車の中をのぞいているような不審者を見かけた場合は警察までご連絡願います

# 本

# 送料無料

当販売所では様々なジャンルの書籍、雑誌、文庫、新書、週刊誌の定期購読など、ほとんど全ての出版物を確実にお取り寄せします。

**今読みたい話題作！欲しい本をお取り寄せ！**

気軽にお問い合わせください。

通販は送料がかかりますが当販売所は無料です。

**※当店取り置きとなります。宅配サービスは致しません。**

## 道新三月号ポケットブックの御案内です。

▼3月号＝「親子でクッキング」子どもが中心になって作れるバラエティー豊かなレシピをルビ付きで紹介します。料理をスタートする前にチェックしておきたい項目や計量スプーン・計量カップの使い方をはじめとした調理器具の数々、包丁の使い方や材料の切り方の種類についても写真付きでわかりやすく伝えます。親子でキッチンに立ち楽しくクッキングする際に使って欲しい1冊です。

ぶんぶんクラブのページは「日本人のソウルフード　そば・うどん特集」です。

配布済み。

ポケットブック次号予告

「漬け込む料理　マリネ」

マリネは調理方法の一つで、肉、魚、野菜などを香味野菜とともに、酢、油、香辛料などで作るマリネ液に漬け込むものです。食材を揚げたり、ゆでたり、または生のままマリネ液に漬けてそのまま食べる料理のほか、下味を付ける、肉を柔らかくしてから加熱調理する料理などがあり、使う食材によっては保存性が高くなることも期待できます。

お楽しみに。

連続小説

# 電池のきれた兜虫

赤池　武臣

＜1＞

典子がひとり息子の武彦を連れ、上野駅から夜行列車に乗りこんだのは、まだ残暑のきびしい、八月末のことだった。

十九歳のとき、吹溜りのような生活から逃がれ、九州から上京して、すでに十年余りが経っていた。その十年余りの歳月の中で、身に染みた東京の青臭い人間の垢をぬぐいさるための旅立ちでもあった。

それともう一つ、典子の気持に大きく変化が生じ、住みなれた東京という街を捨てる決心がついたのには、武彦の一つの言葉が大きく作用した。

その日は朝からどしゃぶりの雨が降り、時折強い風も交え、その状態が一日続いた。

典子は勤めている店での深酒がたたり、動かすだけで割れるような頭をかか凡て暫くその雨音を開いていたが、思い切って店に電話し、風邪をぶりかえしたことを理由に、一日休ませてくれるよう頼んだ。

店のおかみも、こんな調子ではおそらく開店休業だろうから、様子をみて店を閉めるかも知れないと言い、こころよく承知した。

そんな電話を掛けている枕元で、武彦は腹這いになり、おとなしく兜虫で遊んでいる。

音ひとつたてず、ひっそりと遊んでいる武彦を見るにつけ、典子はつくづく、この子は本当に哀れだと思った。

上京して五年目、東京のみずにも慣れ、気持にも少し余裕が出てきた頃、武彦の父親、健三と知り合った。

知り合って偶然にも、お互いの出身地が同郷だと判ったことから、それをきっかけに、二人の間は急速に接近し、お互いの境遇を慰め合っているうちに、同棲するまでになった。

そして武彦が生まれた。

しかし健三は、武彦が生まれて三月目、激しい武彦の夜泣きの事から口論となり、そのままぷいと家を出たまま、二度と帰ってくることはなかった。

そんな健三を、はじめこそ典子は憎んだが、半年近く接触を拒んできたことが理由の一つだったのだと次第に諦めはじめ、この頃では意地でもこの子だけは育ててみせると思うようになった。

つづく